



2020年6月18日

各位

上場会社名 東洋エンジニアリング株式会社
 代表者 取締役社長 永松 治夫
 (コード番号 6330 東証第一部)
 問合せ先責任者 経理部長 大和 武史
 (TEL 047-454-1521)

業績予想と実績の差異および営業外収益・費用の計上に関するお知らせ

2019年5月15日に公表いたしました業績予想数値と本日公表の実績値につきまして、下記のとおり差異が生じたので、お知らせいたします。併せて、営業外収益および費用の計上についてもお知らせいたします。

記

1. 業績予想と実績の差異

(1) 2020年3月期通期連結業績予想と実績との差異(2019年4月1日～2020年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (2019年5月15日発表)	百万円 240,000	百万円 3,000	百万円 3,000	百万円 2,000	円 銭 34.13
実績値(B)	219,094	1,890	2,467	1,664	28.40
増減額(B)-(A)	△20,905	△1,109	△532	△335	
増減率(%)	△8.7	△37.0	△17.7	△16.8	
(ご参考)前年実績 (2019年3月期)	294,993	△5,613	3,426	△818	△20.51

(注) 2019年3月に発行しましたA種優先株式を含めて1株当たり当期純利益を算出しております。

(2) 差異の理由

完成工事高は、一部のプロジェクトにおいて想定していた進捗率を下回り、前回公表値から209億円減収の2,190億円となりました。

営業利益は、米国向けエチレン製造設備プロジェクトにおける工事コストの増加に対して、その他プロジェクトでの収支改善、主にプロポーザル費用を中心とした販管費の抑制に努めたものの、新型コロナウイルス感染症の発生および拡大に伴い、一部案件で工期の遅延等の影響が生じコストが増加した結果、前回公表値に対して11億円減益の18億円となりました。

一方、ブラジル持分法適用関連会社の収支向上等による持分法による投資利益の増加等により、営業外損益で5億円増益となった結果、経常利益は、前回公表値に対して5億円減少の24億円となりました。

更に、保有株式の売却益等を特別利益として19億円計上し、繰延税金資産の取崩や一部海外連結子会社の税金費用による税金費用27億円を控除し、その結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前回公表値から3億円減少の16億円となりました。

2. 営業外収益・費用の計上について

(1) 持分法による投資利益

ブラジル持分法適用会社が遂行するプロジェクトの採算向上や過年度に費用として計上した税金の還付等により、当第4四半期連結累計期間における持分法による投資利益は14億円（同第3四半期連結累計期間においては、持分法による投資損失2億円）となりました。

(2) 為替差損

新興国の現地通貨安等の影響により、当第4四半期連結累計期間において為替差損19億円（同第3四半期連結累計期間は、為替差損10億円）を計上しました。

以 上